

「本当の強さ」…パリのテロより

合掌

11月14日、15日の二日間に渡って行われた全国大会が終了しました。全国大会に出場した拳士、そして、応援頂いた関係者の方々、有難うございました。全国から選抜された拳士が集まっての、年に一回の大会です。参加することに意味があります。来年は大分です。大分は私の故郷なので、特別な思いがありますが、まずは、開催を応援したいと思います。

フランスのパリで「イスラム国」による同時多発テロが発生しました。何の関係のない一般市民を狙った非情な殺戮行為について、憤りを禁じ得ません。人類の歴史が始まって、有史以来何千年もの時間が経っているのに、こうした、それぞれの立場からの一方的な殺戮行為が未だに繰り返される現実、人間とは斯くも愚かなのかと、全く情けないという他ありません。

しかし、このテロに関してのある報道に、私は、人間の「本当の強さ」とはこういうことではないかと考えさせられました。それは、妻をこのテロ事件で亡くしたジャーナリスト・レリスさんの、インターネットに投稿されたメッセージです。すでにご存じの方もおられると思いますが、一部紹介します。

「…私は君たちに憎しみの贈り物をあげない。君たちはそれを望んだのだろうが、怒りで憎しみに応えるのは、君たちと同じ無知に屈することになる。君たちは私が恐れ、周囲に疑いの目を向けるのを望んでいるのだろう。安全のために自由を犠牲にすることを望んでいるのだろう。それなら、君たちの負けだ。私はこれまでと変わらない。…」

という内容のものです。

「本当の強さ」とは何か。開祖はよく「人間死ぬまで負けたのではない。」と言われておりました。少林寺拳法は、少林寺拳法の修練を通して、本当により所となる自己を作り、間違っていることは正していく、正しいことを正しいと言える、そんな勇気と行動力を持った人作りの道です。悪には決して屈しない「不撓不屈」の精神を鍛えていくことです。レリスさんのメッセージには、決して負けないという強さを感じると同時に、ただ、感情的に復讐をするということではなく、自分たちの「意思」と「自由」を貫くという決意が表れています。また起こされるかもしれないテロの脅威に屈することなく、自分たちの生活を「自由」を平然と続けるということ、これも「本当の強さ」だと思います。しかし、実際、私がパリに住んでいたら、子ども達には、出来る限り現場周辺には近づかないようにさせ、外出は控えさせるかもしれません。それは、子ども達の安全を考えたときには、たとえ何と言われようとも、まずは子ども達の安全を、命を第一優先にしたいと思うからです。これも、「強さ」ではないでしょうか。それぞれの立場で、自分の事だけでなく、周りのことを考えて行動することは、やはり「本当の強さ」と言えると思います。

まずは、何が正しいのか、何が間違っているのか、そういうことをしっかりと判断し、行動できる「自己」を確立することです。そして、「人の為に」行動できる自分をつくること、これが少林寺拳法の「人作りの道」なのです。

結手